



平成 21 年 5 月 20 日

各 位

会 社 名 メディアエクスチェンジ株式会社
代表者名 代表取締役社長 徳田 成美
(コード番号 3746 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者 小林 保
(TEL. 03-4306-6543)

継続企業の前提に関する注記に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 5 月 20 日開催の取締役会において、平成 21 年 3 月期決算短信及び有価証券報告書における継続企業の前提に関する事項について、下記のとおり注記することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期 連結財務諸表

当社グループは、前連結会計年度に 327 百万円の営業損失を計上し、当連結会計年度には 488 百万円の営業損失を計上する大幅な減益となり、さらに当連結会計年度には固定資産の減損及び有価証券の評価損等の特別損失 3,087 百万円を計上し当期純損失は 3,556 百万円となりました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような業績となりました主な要因は、連結財務諸表提出会社である当社のハウジングルーム増床の設備投資による不動産賃借料、通信機器保守料及び通信設備使用料等の固定費が増大する中、主要顧客の取引解約によるコアビジネスの売上の伸び悩みによるものであります。当社は、当該状況を解消すべく、効率的で高採算のハウジングルーム確保に向け、資産の一部について除却等のリストラクチャリング、顧客ニーズに的確に対応できる新サービスの開発及び事業原価の徹底的削減等の事業の再構築に取り組んでまいります。また親会社のフリービット株式会社から当社の事業面及び資金面等の経営全般につき、指導・支援していくことを約束していただいておりますが、現時点では、これらの効果が実現し業績改善までに相当の期間を要する見込みから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結財務諸表に反映しておりません。

2. 平成 21 年 3 月期 個別財務諸表

当社は、前会計年度に 367 百万円の営業損失を計上し、当会計年度には 402 百万円の営業損失を計上する大幅な減益となり、さらに当会計年度には固定資産の減損及び有価証券の評価損等の特別損失 3,152 百万円を計上し当期純損失は 3,557 百万円となりました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような業績となりました主な要因は、ハウジングルーム増床の設備投資による不動産賃借料、通信機器保守料及び通信設備使用料等の固定費が増大する中、主要顧客の取引解約によるコアビジネスの売上の伸び悩みによるものであります。当社は、当該状況を解消すべく、効率的で高採算のハウジングルーム確保に向け、資産の一部について除却等のリストラクチャリング、顧客ニーズに的確に対応できる新サービスの開発及び事業原価の徹底的削減等の事業の再構築に取り組んでまいります。また親会社のフリービット株式会社から当社の事業面及び資金面等の経営全般につき、指導・支援していくことを約束していただいておりますが、現時点では、これらの効果が実現し業績改善までに相当の期間を要する見込みから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を財務諸表に反映しておりません。

以 上